

平成26年度からこれまでに標本船調査、試験操業、水底質調査、動植物プランクトン調査等を実施し、それらの調査結果を分析することにより、候補地や候補地周辺は漁業にとって重要な海域の一つとなっていることが分かりました。

本資料では、調査結果とその分析から判明してきた候補地及び候補地周辺に生物が多く集まる要因について報告します。

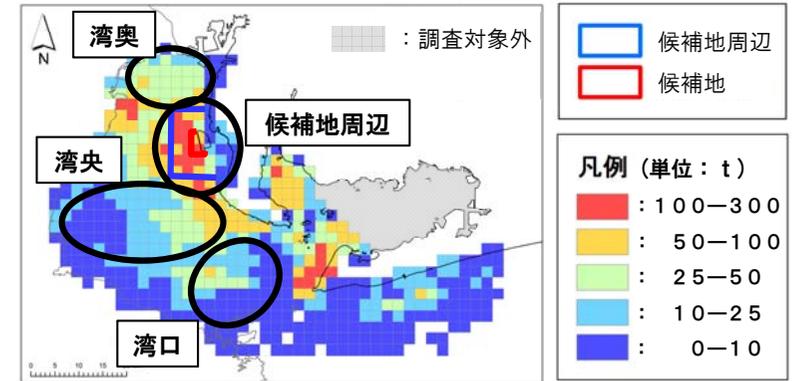


図1 【標本船調査】全魚種 合計漁獲量 (H26.4~H27.3)

試験操業(底曳)における漁獲量は、平成26年度及び平成27年度ともに貧酸素が発達する6月～9月が多く、7月が最も多かった

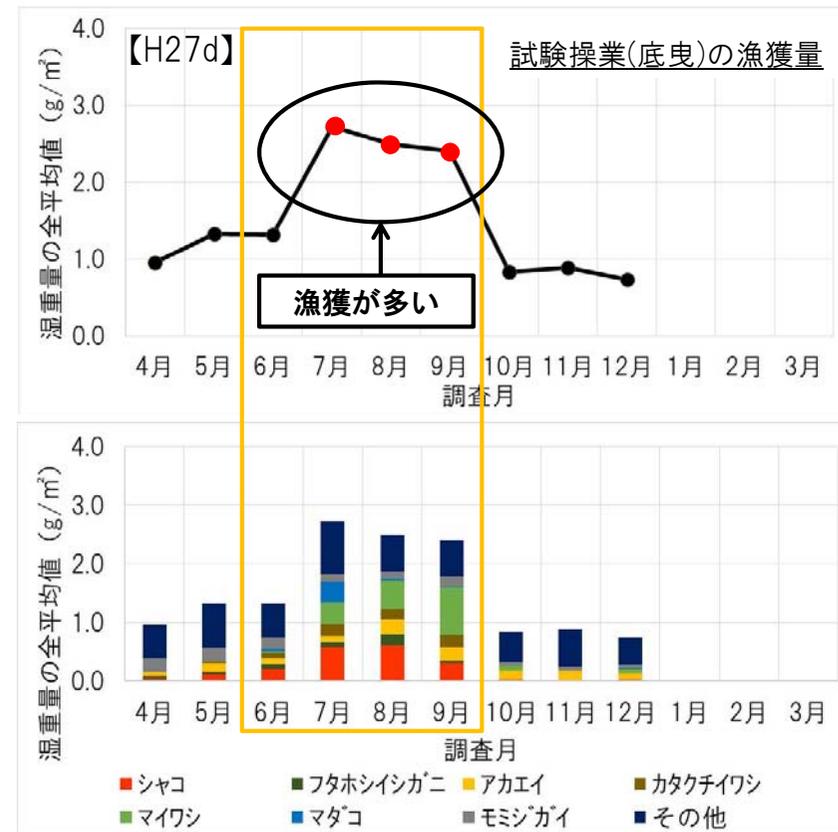
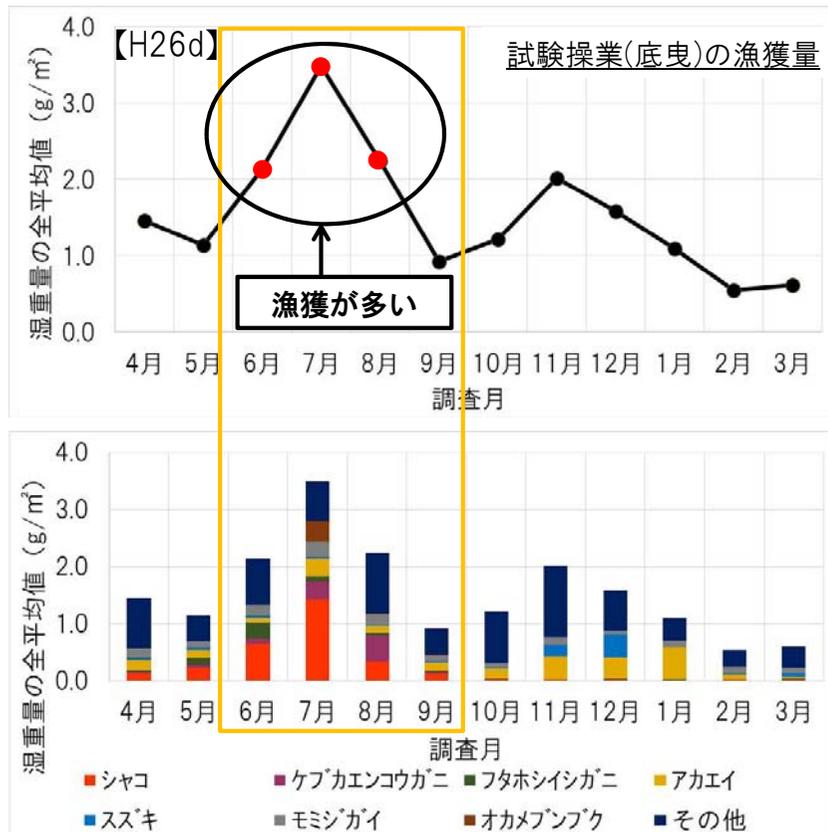
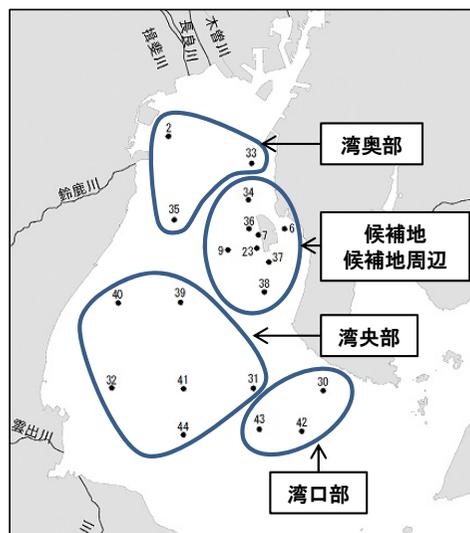


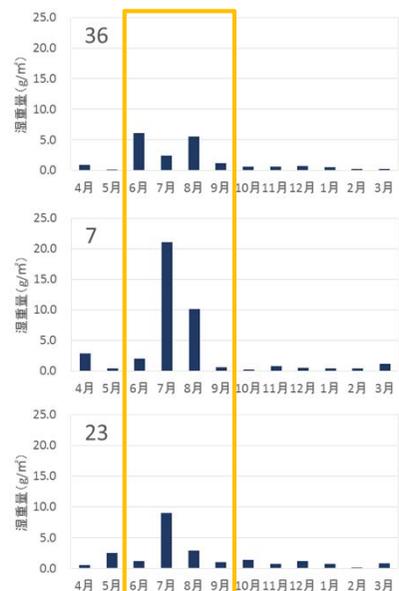
図2 試験操業(底曳)の漁獲量の変化と漁獲種

# 伊勢湾漁業影響調査 これまでの成果

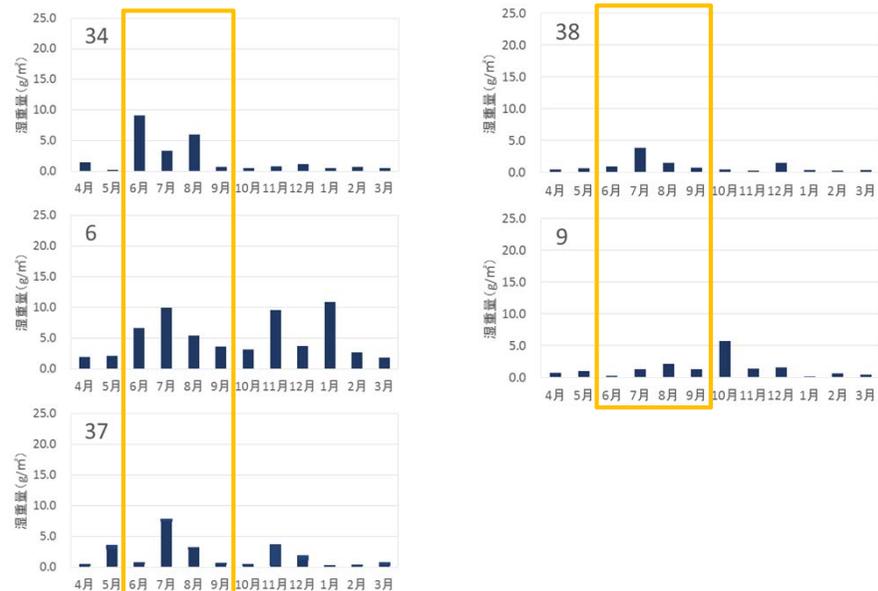
平成26年度 試験操業(底曳)結果から、6月～9月は候補地及び候補地周辺に漁獲が集中している傾向



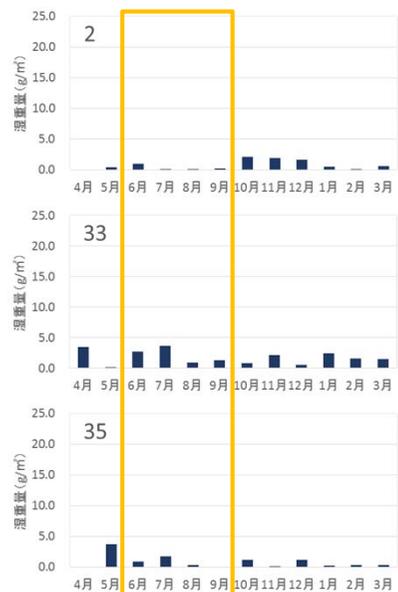
候補地【H26d】



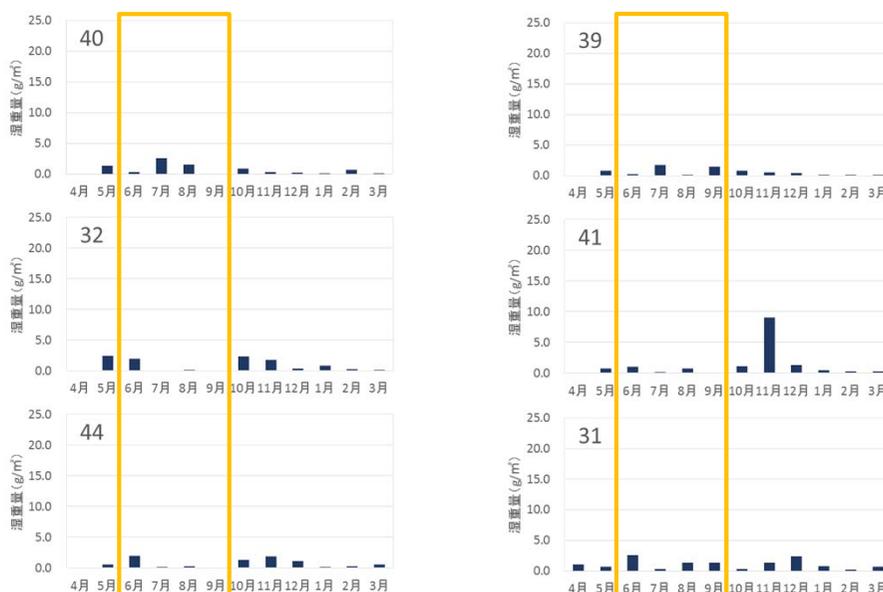
候補地周辺【H26d】



湾奥部【H26d】



湾中部【H26d】



湾口部【H26d】

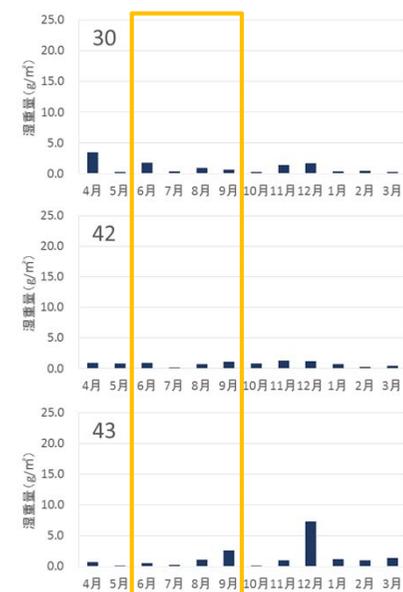
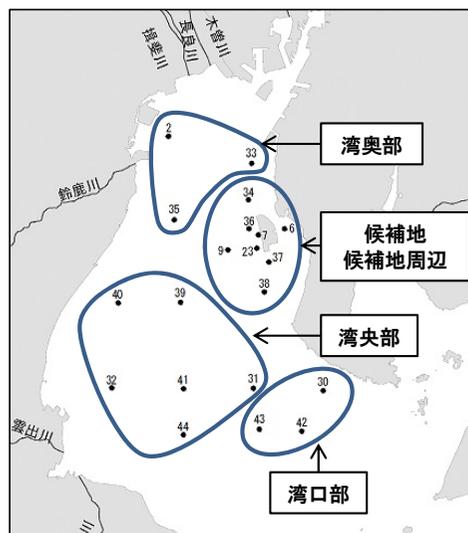


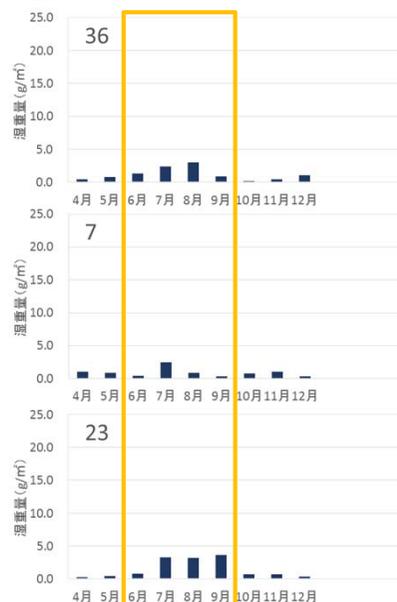
図3 試験操業(底曳)の漁獲量の変化(平成26年度)

# 伊勢湾漁業影響調査 これまでの成果

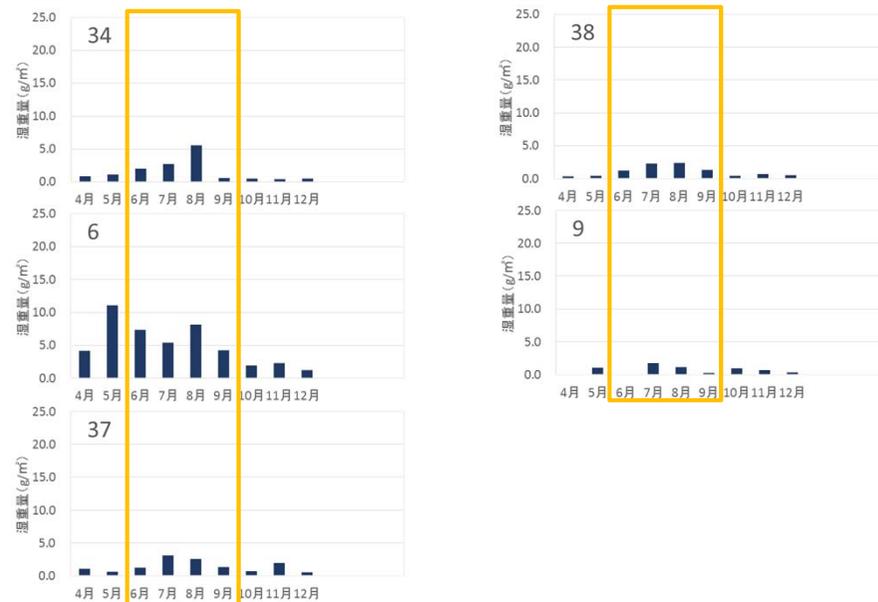
平成27年度 試験操業(底曳)結果から、平成27年度は平成26年度に比べ候補地及び候補地周辺に漁獲は集中していない



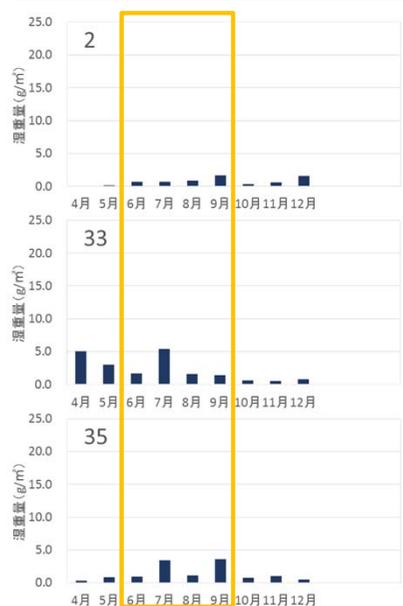
候補地【H27d】



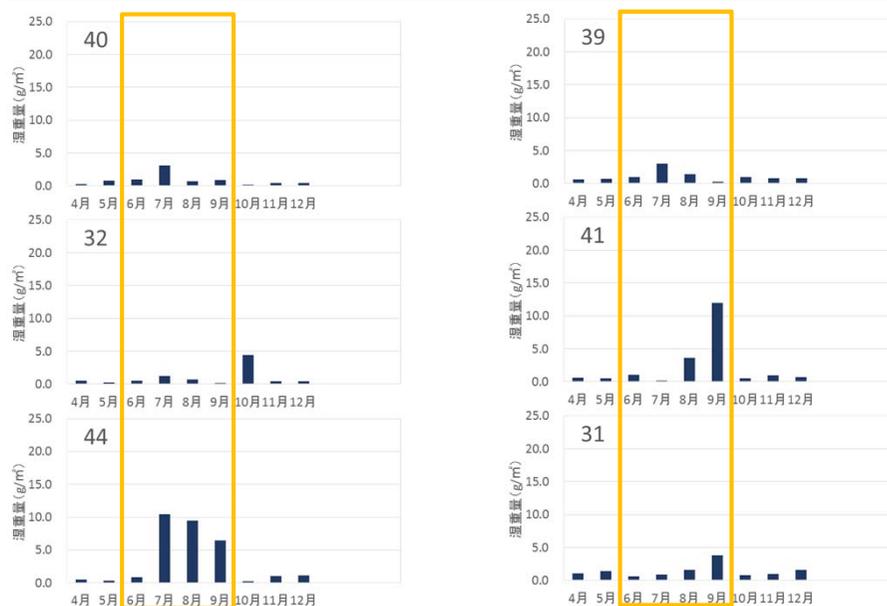
候補地周辺【H27d】



湾奥部【H27d】



湾中部【H27d】



湾口部【H27d】

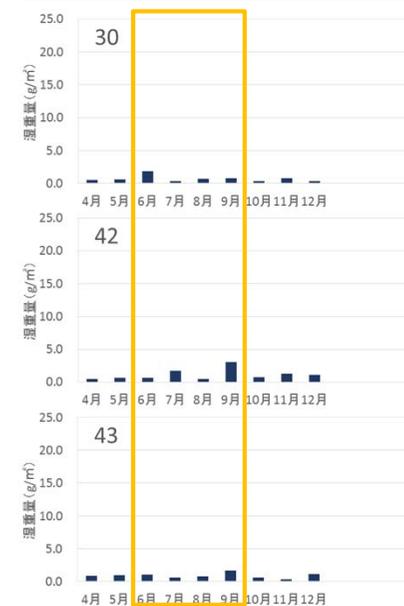


図4 試験操業(底曳)の漁獲量の変化(平成27年度)

## 貧酸素の強弱が漁業生物の分布に影響を与えていることが示唆される

- 貧酸素の影響が強かった平成26年度は、7月～9月に候補地および候補地周辺に漁獲が集中しています
- 貧酸素の影響が弱かった平成27年度は平成26年度に比べ漁獲は分散しています

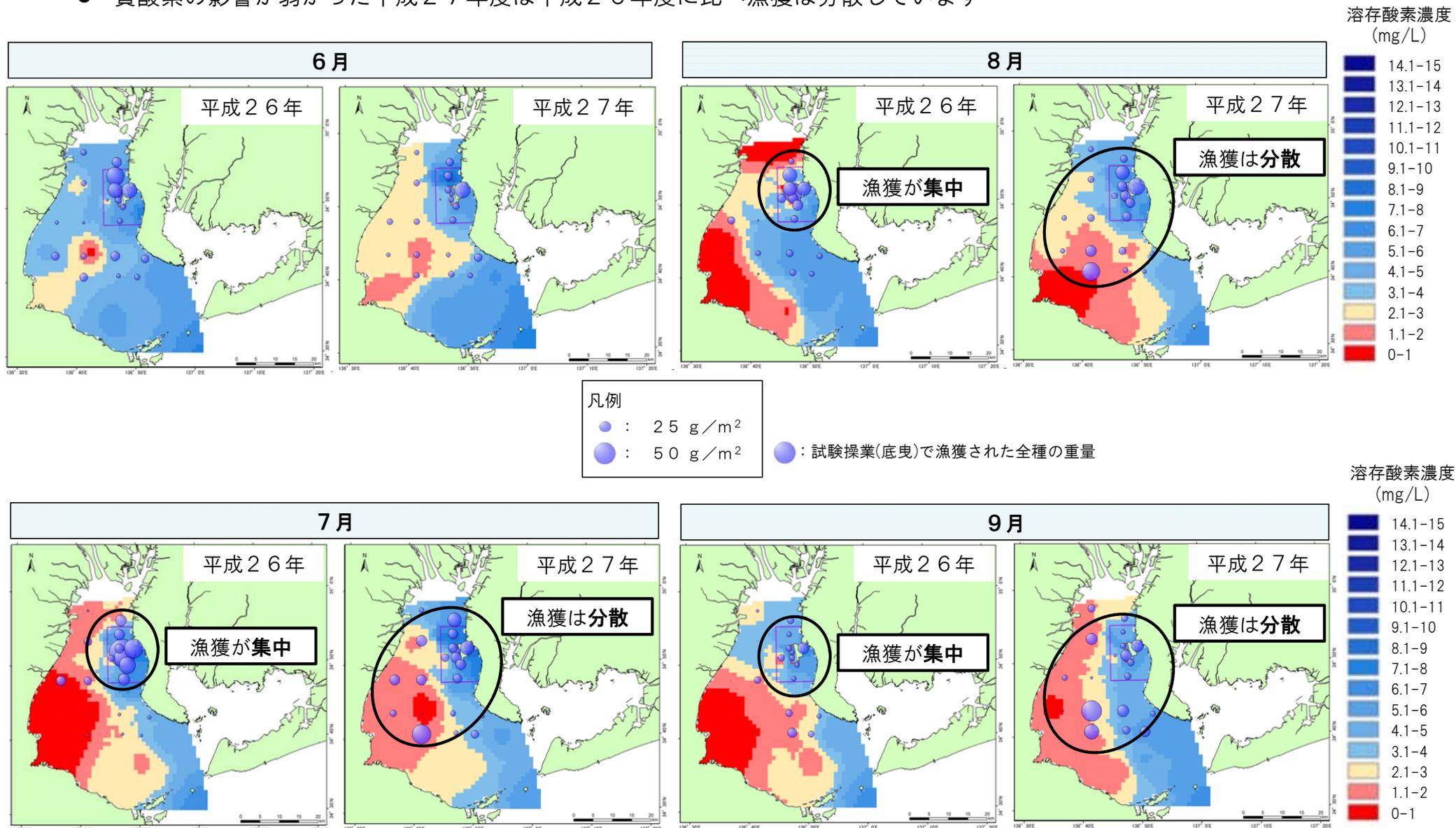


図5 H26d、H27dの底層(海底上1m)の溶存酸素(DO)と試験操業(底曳)の漁獲分布

動物プランクトンの発生は漁獲が多い6月～9月に候補地周辺に多い傾向にある

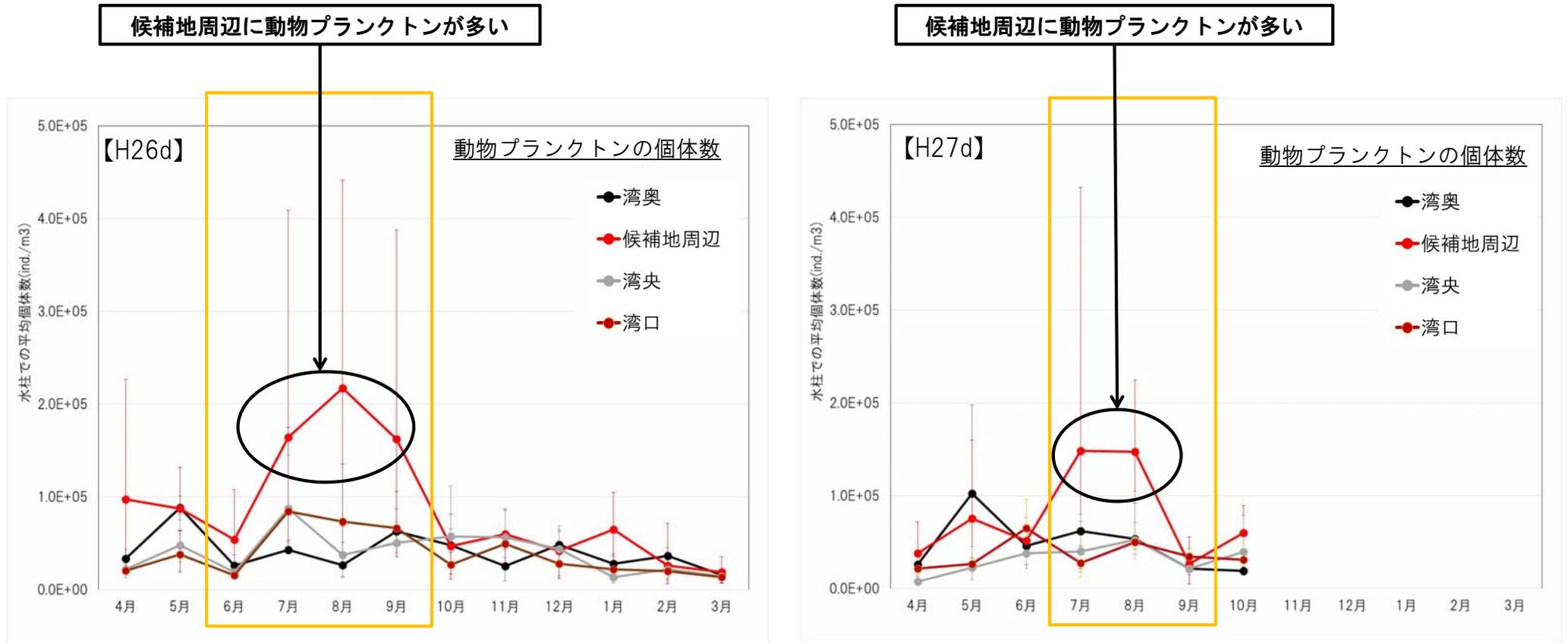
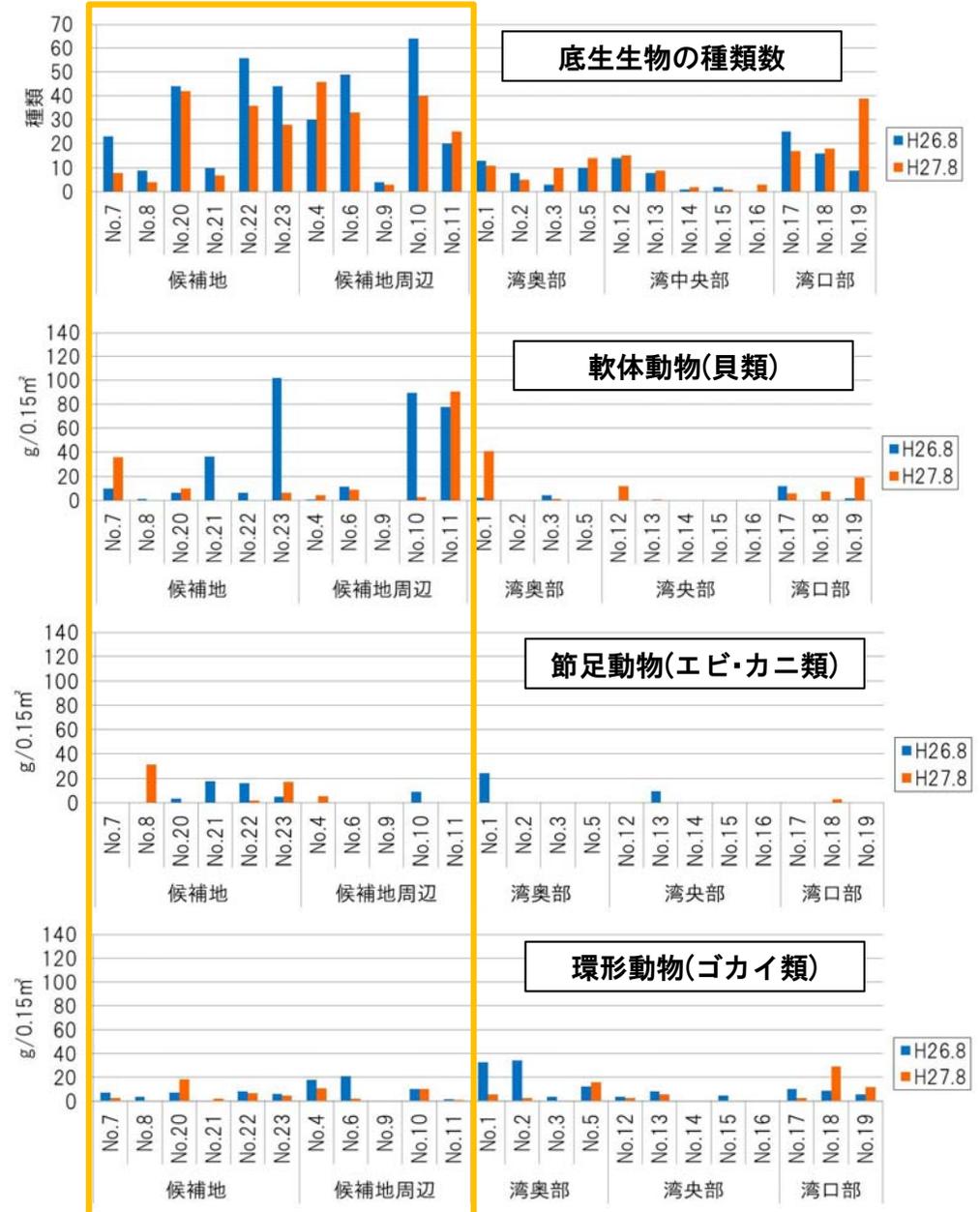
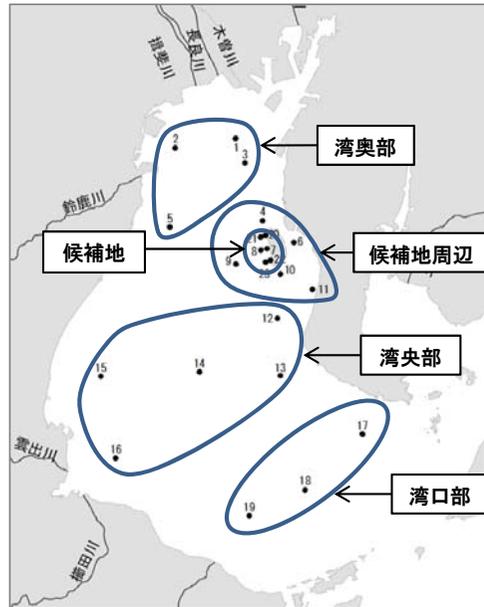


図6 試験操業(底曳)の漁獲量の変化

漁業生物の餌生物は候補地及び候補地周辺に種類も重量も多く分布していることを確認できた

- 候補地周辺で漁獲されたマコガレイの胃内容物には様々な種類の底生生物が存在し、それらの生物は候補地及び候補地周辺や湾口部に多く分布していることを確認しました
- 湾口部でも底生生物の種類・重量が多いことが確認されました
- 候補地周辺の水深が深いNo.9は種類も重量も少ない状況でした



番号	分類	種名	1	4
1	多毛類	ミズヒキゴカイ		
2		チロリ科		
3		ニカイチロリ科		
4	腹足類	キセワタ属		
5	二枚貝類	マテガイ属(水管)		
6	甲殻類	ソコシラエビ		
7		スナモグリ科		
8		ラスバンマメガニ		
9	棘皮類	カキクモヒトデ		
10		スナクモヒトデ科		

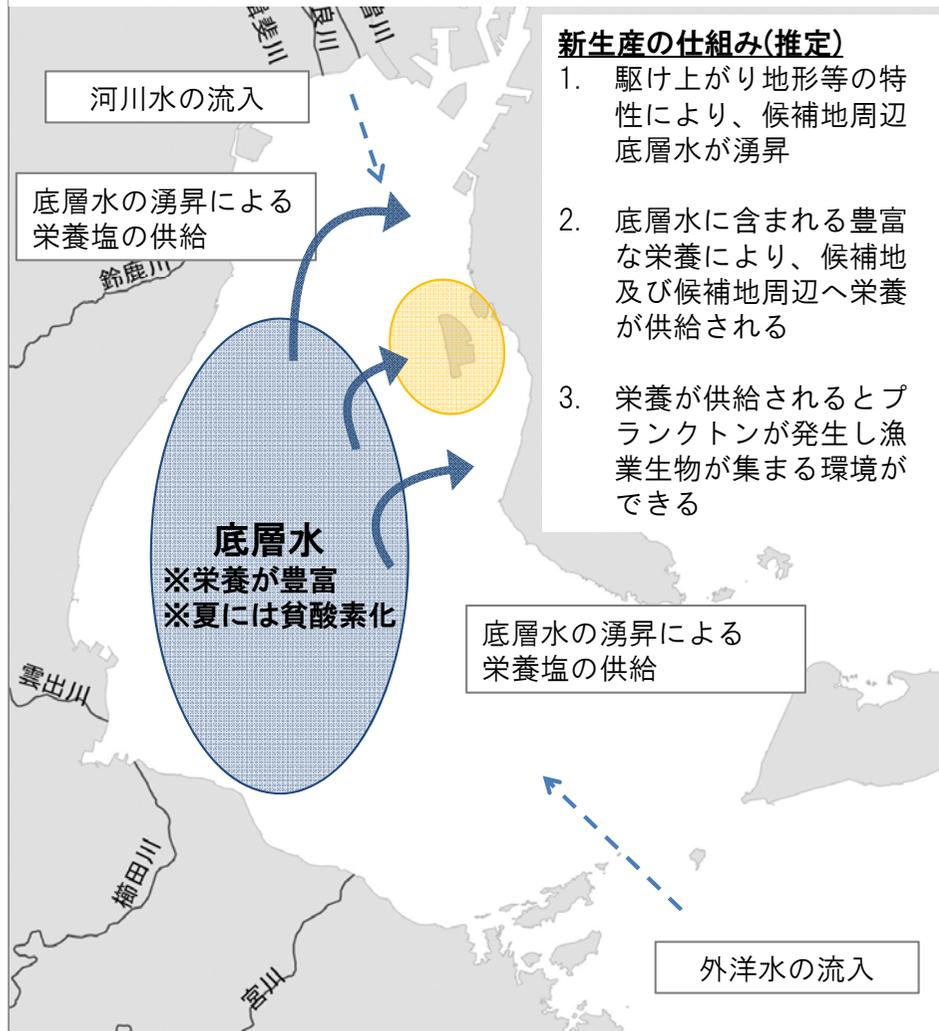
図7 マコガレイの胃内容物(H27d産卵親魚調査)

図8 底生生物の種類数と採取重量(H26.5~H27.11)

候補地及び候補地周辺は、新生産及び再生生産により栄養供給が豊富で豊かな生物生産の場になっている可能性がある（推定）

- 底層水の湧昇により、候補地及び候補地周辺へ栄養塩が供給されると考えられる。なお、夏には底層水はしばしば貧酸素化する。
- 候補地及び候補地周辺は水深が浅く貧酸素水からの退避場になっていると考えられ、その生物による排泄などがさらなる栄養の供給源となる
- 漁業による海底の耕耘や護岸上の海藻などが栄養のさらなる供給源となり、生物にとって多様な供給経路が確保されている
- 以上の生産・再生の場の詳しい構造について、今後重点的に検討していく

## 1. 伊勢湾全体からみた栄養供給による新生産の仕組み(推定)



## 2. 候補地及びその周辺の再生生産の仕組み(推定)

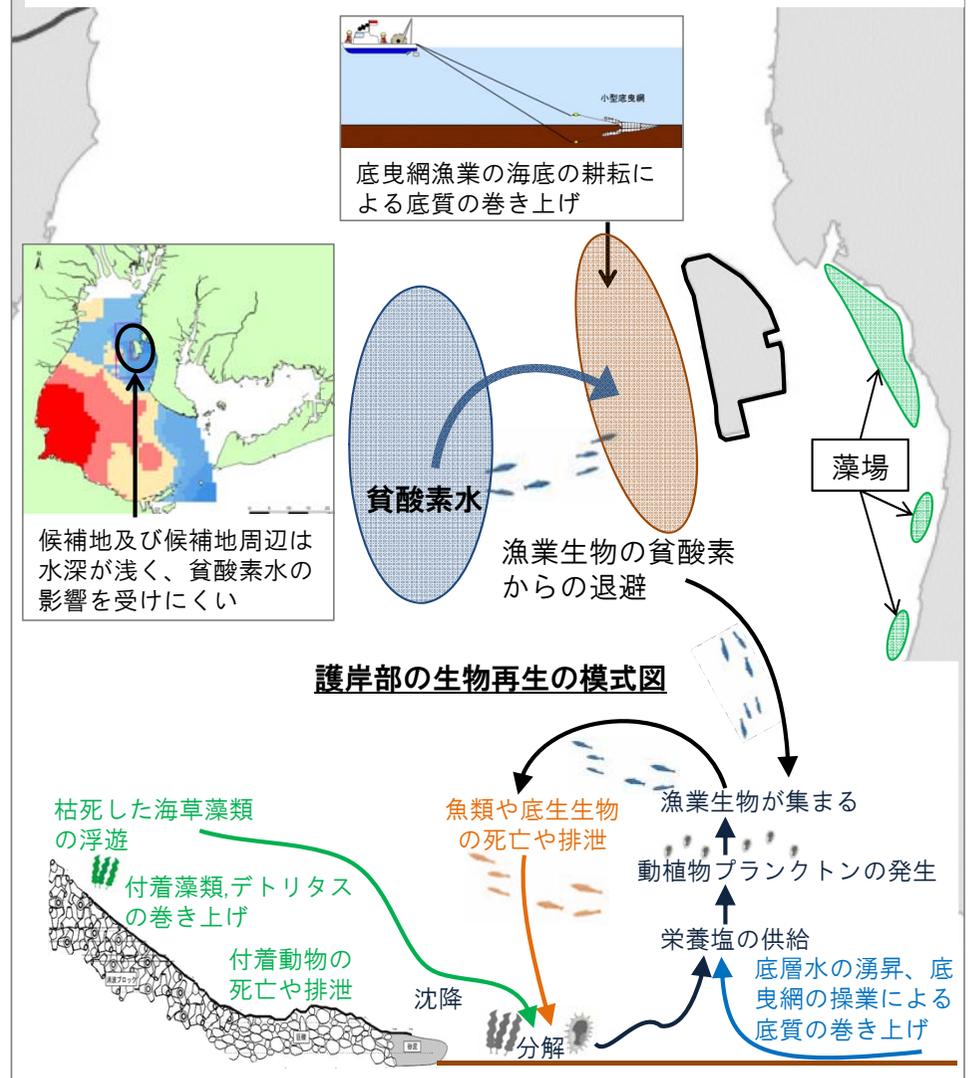


図9 候補地及び候補地周辺に生物が多い要因の推定図